

## 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議（概要）

日時：令和5年2月27日（月）

10：00～11：45

会場：三朝町役場第2会議室

### 1 開会

### 2 松浦町長あいさつ（要旨）

- ・3年間続いたコロナも落ち着いてくるのかなと思っている
- ・コロナ禍で停滞していた分を取り戻していくため、皆さんから意見を頂戴して進めたい
- ・日本遺産の件、再認定ということで体制を立て直し、皆さんに協力をいただいている
- ・温泉を活用した健康まちづくり事業は、基本的な構想の策定を進めている  
これから2年間のうちに事業をスタートさせたいと考えている

### 3 自己紹介

### 4 議題

- (1) 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標検証等報告
- (2) 三朝町過疎地域持続的発展計画事業実施状況及び達成状況
- (3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金令和2・3年度事業実績及び令和4年度事業予定  
資料2～4に沿って事務局から説明

#### 【福田委員】

- ・出生数は減少というより超減少、非常に気になる
- ・新小学校のことをはじめ三朝町のPRと住宅環境を整えることを進めてもらいたい
- ・コロナ対策に係る補助は、事業者は助かっている

#### 【山本委員】

- ・農業関連では、国・県の支援はあるが、うまく理解して使える人が少ないと感じる
- ・15歳～34歳の上の年代がどれくらいおられるのか気になる

#### 【小川委員】

- ・温泉と森を繋いで「健康を育むまち」という取組ができないか
- ・ふるさと納税やJクレジットと森林を活用した取組が全国的に進んでいる

#### 【野上委員】

- ・子育て支援政策を重点的に取り組んでいただきたい
- ・実際に町内に移住された方の「良かった」、「残念だった」という声を集めて参考にするとよい
- ・雇用調整助成金が原則的な取り扱いに戻っているため、事業継続がいい具合に回っていくか心配な面がある

#### 【山名委員】

- ・令和2～3年度にかけて、住民ネットワーク光化を町と一緒に進めてきた。今後は、いかに光を活用していくか
- ・NCNではスマホ教室を実施している。SNSで情報発信するなら、スマホ操作に不慣れな人のフォローもあわせて実施すると効果的
- ・「ケーブルテレビ」というと地域内の放送というイメージがあったかもしれないが、今後全国のケーブルテレビ局で連携して地域外への発信が進むかもしれない

#### 【高見委員】

- ・10年も経つと社会が激しく変わっていると感じる。先を見据えた先行的な取組をしないとなかなか通用しない
- ・実証的な取組をよくされていると思うが、実験で終わってしまっていないか
- ・良い事業・取組をしても、関係者間での情報共有で終わってしまっていないか。幅広く周知することを心掛けてほしい

#### 【西田委員】

- ・小学校建設は、今日的な環境にマッチするよう努めている
- ・国際・国内交流はリモートでの交流が進んでいる
- ・住みやすい、移住しやすい、子育てしやすいことをいかに実例を用いて紹介するかが大切

#### 【前田代理委員】

- ・若年層が町内に家を建てたいと思った時に、場所があるか
- ・転入を増やすことも重要だが、転出を防ぐ取組がより重要

#### 【太田委員】

- ・人口を増加させるのは、現状では難しいのではないかと。いかに減少を食い止めるか考えることが重要
- ・地域の大切なインフラを守り、便利な町である必要がある

#### 【塩谷委員】

- ・郵便局の窓口を交流の場として利用してもらうことで地域に関わっていくことができている
- ・働く場所が町内になければいけない。郵便局としても力になっていきたい
- ・自分自身三朝に移住して、不自由さを感じたことがない

#### 【岩本委員】

- ・自治体システムのデジタル化を引き続き推進したい
- ・人口減少、住みやすい地域、教育環境の充実ということでICTをお手伝いしていきたい
- ・親世代が地域の魅力を知らない、子どもに対して「帰ってきて」という話にならない

#### 【岸田参事】

- ・移住された方の生の声に耳を向けて、情報発信していくとよい

#### 【松浦町長】

- ・人口減少、少子化が予想以上に進んでいる
- ・三朝町だけでなく県内、中部圏域で働く場所をつくっていく必要がある
- ・森林整備や森を活かすということは、持続性をもって取り組む必要がある
- ・情報化は見る人、発信する人、いろんな形で知識を持っていただくことが重要。スマホ教室等を少しずつ広めていくことが、理解を深めることにもつながる
- ・地域づくりは転換期を迎えている。実証してきたことを具体化していく必要がある

## 4 議題

(4) 日本遺産を通じた地域活性化計画事業進捗(令和3年度実績)

(5) 温泉を活用した健康まちづくり事業基本構想原案における事業の方向性の3つの柱

資料5・6に沿って事務局から説明

#### 【西田委員】

- ・三朝の観光は、観るだけでなく肌や手で感じてもらうことがコンセプトだと思う
- ・山陰エリアくらいの規模で、温泉文化や資源の関わりを深めていければよい

#### 【前田代理委員】

- ・日本遺産地域プロデューサーの頑張りに期待したい

**【塩谷委員】**

- ・町民目線での温泉を活用した健康まちづくり事業は非常に良い

**【岩本委員】**

- ・観光情報発信にぜひICTを活用していただきたい
- ・町民にとって、温泉が地元だから足が向かない、ではなく、地元だからこそできる健康づくりにつなげてほしい

**【福田委員】**

- ・日本遺産の認定再審査の件、見直すいい機会になった
- ・温泉を活用した健康まちづくりは、とても大事な事業なので、腰を据えてやっていただきたい

**【山本委員】**

- ・米や農産物と六根清浄との関連がなおざりになっている、連帯感がない。関連させることができれば面白いストーリーになるのでは

**【小川委員】**

- ・温泉活用の中に、森林の活用ということも検討していただきたい
- ・ゼロカーボンシティ宣言の件、三朝町のSBTに関わる取組ができたらと思う

**【野上委員】**

- ・若年層の方に三朝温泉を知ってもらうための取組が大事

**【山名委員】**

- ・日本遺産、温泉健康ともに広報・告知が重要。告知の媒体は様々あるので、どこに向けた発信かを意識して適した方法で情報発信をしていくことが大事

5 閉会

11:45 閉会



会議の様子